章　項目　特記事項

8 耐震改修工事

21 無筋コンクリート

設計基準強度　・18（N/mm2）　・　(6.2.1)　(6.14.1)
スランプ　・15cm又は18cm　・
適用箇所　・標準仕様書6.14.1(e)による箇所
・図示による（　　）・

22 流動化コンクリート

適用箇所　(6.2.1)　(6.15.1)
・図示による（　　）・

23 ひび割れ誘発目地、打継目地

目地寸法　(6.6.3)　(6.8.2)　(9.7.3)
・標準仕様書9.7.3による
間隔・位置・形状
・図示による（　　）・

24 コンクリートの仕上り

部材の位置及び断面寸法の許容差の標準値　[8.1.4]　[8.2.7]
・標準仕様書8.1.2による　・
合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ

種別	適用箇所
・A種	
・B種	
・C種	

25 打増し厚さ（打放し仕上げ部）

打放し仕上げの打増し厚さ（外部に面する部分に限る）　[8.7.8]
・20mm　・
打放し仕上げの打増し厚さ（内部に面する部分に限る）
・10mm　・20mm
・

26 型枠

せき板の材料及び厚さ　(6.8.3)　[8.2.7]
・合板（・12mm　・　）　・
断熱材の兼用
・行わない　・行う
MCR工法用シート
・用いる
打増し厚さ　・20mm
打増し範囲　・図示による（　　）　・
・用いない
スリーブの材種
・改修標準仕様書8.2.7(f)(2)(i)又は(ii)による　・

27 型枠の加工及び部位

セパレータをシアコネクタとして使用　[8.7.8]
適用箇所　・図示による（　　）　・

28 コンクリートの打込み工法等

部位毎のコンクリート打設工法の指定　[8.19.8]　[8.21.5]

補強工法	打設工法	部位
・現場打ちｺﾝｸﾘｰﾄ壁の増設工事	・工法指定なし	・全ての増設壁 ・図示による（　　）
	・流込み工法 8.19.8(a)(1)、(b)	・全ての増設壁 ・図示による（　　）
	・圧入工法 8.19.8(a)(2)、(c)	・全ての増設壁 ・図示による（　　）
		・図示による（　　）
・鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ柱の溶接金網巻き及び溶接閉鎖フープ巻き工法	・工法指定なし	・全ての増設壁 ・図示による（　　）
	・流込み工法 8.19.8(a)(1)、(b)	・全ての増設壁 ・図示による（　　）
	・圧入工法 8.19.8(a)(2)、(c)	・全ての増設壁 ・図示による（　　）
		・図示による（　　）
・	・工法指定なし	・全ての増設壁 ・図示による（　　）
	・流込み工法 8.19.8(a)(1)、(b)	・全ての増設壁 ・図示による（　　）
	・圧入工法 8.19.8(a)(2)、(c)	・全ての増設壁 ・図示による（　　）
		・図示による（　　）

鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法での型枠等
柱頭柱脚の隙間部間の型枠
・発砲プラスチック保温材等を埋込む　・
柱頭柱脚の隙間寸法
・図示による（　　）　・
既存柱外周部あと打ちコンクリート又はモルタルの厚さ
・図示による（　　）　・

＜鉄骨＞

22 鉄骨製作工場

製作工場の加工能力　[8.1.5]　(7.1.1)
※建築基準法第77条の56第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び(株)全国鉄骨評価機構（旧(社)全国鐵構工業協会）の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「（　）グレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場

・監督職員の承諾する製作工場

30 施工管理技術者

・適用する　・適用しない　[8.1.5]

31 鋼材

材質等　[8.2.8]

種類の記号	適用箇所（主要な部分）	規格等
		・JIS規格による　・
		・JIS規格による　・
		・JIS規格による　・

32 高力ボルト

ボルトの区分　[8.1.6]　[8.2.9]　[8.13.2]
・トルシア形高力ボルト
セットの種類　・２種（S10T）　・
・JIS形高力ボルト
セットの種類　・２種（F10T）　・
高力ボルトの径
・図示による（　　）　・
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
・図示による（　　）　・
すべり係数試験
※行わない　・行う
試験方法等
・図示による（　　）　・

33 普通ボルト

ボルト及びナットの材料　[8.1.6]　(7.2.3)
・標準仕様書　表7.2.3による　・
座金
・標準仕様書　表7.2.3(d)による　・
ボルトの径
・図示による（　　）　・
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
・図示による（　　）　・

34 溶融亜鉛めっき高力ボルト

セットの種類　[8.1.6]　[8.2.9]　[8.12.7]　(7.12.4)
・１種（F8T相当）　・
溶融亜鉛めっき高力ボルトの径
・図示による（　　）　・
溶融亜鉛めっき高力ボルトのメッキ前の孔径
・審査（評定又は大臣認定）を受けた内容による　・
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
・図示による（　　）　・
摩擦面の処理
・プラスト処理（表面粗度50μmRz以上）
・プラスト処理以外の特別な処理方法
・図示による（　　）　・
すべり耐力の確認方法
・すべり係数試験
試験方法等
・図示による（　　）　・

35 アンカーボルト

適用　(7.2.4)　(7.10.3)
・構造用アンカーボルト
セットの種類（JIS B 1220又はJSSⅡ13－2004）
・ABR400　・ABR490　・
形状、寸法
・図示による（　　）　・
・建方用アンカーボルト
種類
・SS400　・
アンカーボルト及びナットのねじの種類の規格、ねじの等級並びに仕上げの程度
・標準仕様書　表7.2.3による　・
形状、寸法
・図示による（　　）　・

36 溶接材料

溶接材料　[8.2.10]
・改修標準仕様書8.2.10(a)(b)による
・図示による（　　）　・
・
種類　(7.2.6)
建築用ターンバックル胴　・割枠式　・
建築用ターンバックルボルト　・羽子板ボルト　・
ねじの呼び
・図示による（　　）　・

38 デッキプレート

材質、形状及び寸法　(6.8.3)　(7.2.7)　(7.7.8)

	適用範囲	材質、形状、寸法	備考
・デッキプレート単独の構法			
・デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法			
・床型枠用			

開口部補強要領（補強筋の定着長さ等を含む）
・図示による（　　）　・
鉄骨部材への溶接方法
・図示による（　　）　・
耐火認定
・有り
耐火時間　・図示による（　　）　・
・無し

39 スタッド

材質、形状及び寸法
・頭付きスタッド　JIS B 1198　・
種類等

呼び名	呼び長さ（mm）	適用箇所
・16		
・19		
・22		

40 柱底均しモルタル

モルタルの種類　[8.2.11]
・無収縮モルタル
無収縮モルタルの材料及び調合
材料、調合等　・改修標準仕様書8.2.11による　・

41 工作図

監督職員による原寸検査　[8.1.6]
・行わない　・行う
既存建築物との取り合う箇所がある場合は現場実測の上作成を行う

42 製作精度

・改修標準仕様書8.12.2による　[8.12.2]
通しダイヤフラムの許容誤差
・ダイヤフラムをH12建告第1464号第二号イ(1)(2)に規定するただし書きの計算確認有り
補強方法
・「突合わせ溶接の食い違い仕口のずれ検査・補強マニュアル」による
・
・全てのダイヤフラムはH12建告第1464号第二号イ(1)(2)に規定する仕様を満足すること
・

43 鉄骨の仮組

・行わない　・行う　[8.12.9]
仮組を行う範囲
・図示による（　　）　・
確認方法、確認項目
・図示による（　　）　・

44 溶接技能者の技量付加試験

試験の要領　[8.14.3]
・図示による（　　）　・

45 溶接接合

開先の形状　[8.14.4]　[8.14.7]
・図示による（　　）　・
スカラップの形状
・図示による（　　）　・
エンドタブの切除する部分
・見え掛り部となる部分
・図示による（　　）　・
・見え隠れ部となる部分
・図示による（　　）　・
・切除する部分無し
溶接部の余盛り高さ
・JASS6　付則6「鉄骨精度検査基準」　付表3「溶接」による
・

46 入熱、パス間温度の溶接条件

鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件
・図示による（　　）　・
適用箇所
・図示による（　　）
・柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶込み溶接部

47 溶接部の試験

完全溶込み溶接部の超音波探傷試験
・工場溶接の場合　[8.14.11]

・全数
・工事現場溶接の場合
・全数
突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査
「突合せ継手の食い違い仕口のずれ検査・補強マニュアル」による
・抜き取り検査①　・抜き取り検査②

48 錆止め塗装

塗料の種類
・鉄鋼面の錆止め塗料　[8.16.3]
屋外　・改修標準仕様書7.3.2　表7.3.1A種　・
屋内　・改修標準仕様書7.3.2　表7.3.1（　）種　・
・亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料
・改修標準仕様書7.3.2　表7.3.2（　）種　・
鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブ内面（鉄骨に溶接されたものに限る）
・改修標準仕様書7.3.2　表7.3.1A種　・
耐火被覆材の接着する面への塗装
・行わない
・行う
適用箇所
・図示による（　　）　・
塗料の種別
・改修標準仕様書7.3.2　表7.3.1（　）種
・改修標準仕様書7.3.2　表7.3.2（　）種

49 耐火被覆材

種類　[8.17.2～8.17.7]

種類	材料・工法	適用箇所（部位・部分）
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール	
	・半乾式吹付けロックウール	
	・湿式ロックウール	
・耐火板張り	・繊維混入けい酸カルシウム板	
・耐火材巻付け	・高耐熱ロックウール	
・ﾗｽ張りﾓﾙﾀﾙ塗り		

材料及び工法は、建築基準法に基づき定められたもの又は認定を受けたものとする。
性能

性能	適用箇所（部位・部分）
・30分耐火	
・1時間耐火	
・2時間耐火	
・3時間耐火	

50 建方精度

・JASS　付則6「鉄骨精度基準」付表「工事現場」による　(7.10.2)

51 アンカーボルト等の設置

構造用アンカーフレームの形状及び寸法　(7.10.3)
・図示による（　　）　・
建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法
種別　・A種　・B種　・C種
柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種別
・標準仕様書　表7.10.2（・A種［厚さ50］　・B種［厚さ30］）による

52 軽量形鋼構造

接合部（ボルト接合の場合）　(7.11.2)
・普通ボルト接合

53 溶融亜鉛めっき（基礎、主要構造部及びその他構造耐力上主要な部分に限る）

種別等　(7.12.3)

亜鉛めっきの種別	材料	適用箇所（部位・部分）
A種	最小板厚6.0mm以上の形鋼、鋼板	
B種	最小板厚3.2mm以上、6.0mm未満の形鋼、鋼板	
C種	普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小板厚2.3mm以上、3.2mm未満の形鋼、鋼板	

54 鉄骨ブレース設置後の仕上げ

・図示による（　　）　・　[8.20.9]

＜あと施工アンカー＞

55 あと施工アンカー

材料等　[8.2.4]
・金属系アンカー
・引張耐力　（　　）
・せん断耐力　（　　）
セット方式　・本体打込み式改良型　・
接合筋の種類、径、長さ　・図示による（　　）　・
アンカー本体の径及び埋込み深さ　・図示による（　　）　・
・性能確認試験
試験方法及び試験数　・図示による（　　）　・
・接着系アンカー
・引張耐力　（　　）
・せん断耐力　（　　）
セット方式　・カプセル型回転・打撃式　・
接着剤の品質
・有機系　・無機系
アンカー筋の種類
・改修標準仕様書　表8.2.1の異形棒鋼　・
アンカー筋の径及び埋込み深さ
・図示による（　　）　・
アンカー筋の新設壁内への定着長さ
・図示による（　　）　・
・性能確認試験
試験方法及び試験数　・図示による（　　）　・

56 穿孔前の埋込み配管等の探査

探査方法　[8.11.2]
・鉄筋探知機（金属探知機）により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う
・はつり出しによる
・

57 施工確認試験

試験方法　・引張試験　・　[8.11.5]
確認強度　・図示による（　　）　・

＜グラウト＞

58 モルタル及びグラウト材

・構造体用モルタル　[8.2.6]　[8.2.11]
・改修標準仕様書8.2.6による
圧縮強度（　　）
フロー値（　　）
・改修標準仕様書8.2.11による
・
・グラウト材

無収縮グラウト材の材質等

混和材	セメント系（酸化カルシウム及びカルシウム・サルファ・アルミネート等によって膨張する性質を利用するもの）とする。
セメント	JIS R 5210「ポルトランドセメント」に適合した普通または早強ポルトランドセメントとする。
砂	土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。 ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない。

無収縮グラウト材の品質及び試験方法

コンシステンシー	Jフロートによる流下時間 練混ぜ完了から3分以内の値　：　8±2秒
ブリージング	練り混ぜ2時間後のブリージング率　：　2.0%以下
凝結時間	凝結開始時間　：　1時間以内 凝結時間　：　10時間以内
無収縮性	材齢7日　収縮しない
圧縮強度	材齢　3日　20.0N/mm2 材齢 28日　40.0N/mm2
塩化物量	0.30kg/m3以下
試験方法	1）NEXCO試験方法　試験法312―1999「無収縮モルタル品質管理試験方法」による。「プレミックス形と試験方法」による。プレミックス形と現場調合形で混和材が同一の場合はプレミックス形のみとする。 2）塩化物量の試験は、JIS A 1144「フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法」による。

＜連続繊維補強＞

59 適用範囲

連続繊維補強工法　[8.21.1]
・連続繊維シートを柱に巻き付けて補強する工法
・

60 連続繊維シート

連続繊維の材料　[8.2.12]　[8.21.7]
・炭素繊維　・アラミド繊維
連続繊維の材質
引張強度（含浸硬化後）　・（　　）N/mm2　・
ヤング係数（含浸硬化後）・（　　）N/mm2　・
・ひび割れ部改修
範囲　・図示による（　　）　・
種類　・改修標準仕様書8.21.7(a)(2)による　・
・連続繊維補強材の引張強度試験
引張り強度試験
・JIS A 1191（コンクリート用連続繊維シートの引張試験方法）による
・
試験数量
・図示による（　　）
・
・連続繊維補強材の付着強度試験
付着強度試験
・JIS A 6909（建築用仕上塗材）による
・
試験数量
・図示による（　　）
・

工事名称
市営住宅山田住宅長寿命化型改善 工事設計図

特記仕様書6

設計
訂正

担当
意匠　構造　設備

一級建築士　登録　169665 号
向井照雄

向井照雄建築事務所
三重県志摩市磯部町迫間 409-3　電話 0599-55-0157

図面番号
A — 6